

## ◆環境保全活動

### 環境マネジメント

竹中工務店は、「環境方針」に基づき事業における環境活動や、社員の啓発・環境教育を推進しています。当社の環境マネジメントシステムは1998年からISO14001の認証を取得しています。

#### ISO14001認証取得状況・環境教育実施状況

項目	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	注記
全事業所に占める、環境リスク評価が実施された事業所の割合(竹中工務店)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
ISO14001認証取得事業所の割合(竹中工務店)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	国内建設事業部門の取得率
環境教育を受けた従業員の割合(竹中工務店)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	環境月間に実施する環境教育、新社員を対象としたe-ラーニング等
ISO14001認証取得グループ企業数(国内;竹中工務店を除く)	3	3	3	3	3	3	竹中土木、アサヒファシリティズ、朝日興産
ISO14001認証取得海外拠点数(国際支店・海外現地法人)	4	4	4	4	4	4	シンガポール事務所、タイ竹中、インドネシア竹中、ヨーロッパ竹中(チェコ、スロバキア、ドイツ、ハンガリー、ポーランド各支店)

#### 竹中グループ環境月間

毎年6月を「竹中グループ環境月間」と定め、グループ全体での活動および各拠点の計画に基づく活動を実施し、とくに啓発を強化しています。

#### 2023年環境月間のおもな活動

実施項目	概要
グループの全従業員に向けたトップメッセージの発信	環境月間にあたり社員の意識向上を促す社長メッセージの発信
ポスター掲示、胸章着用(作業所)	『人と自然をつなぐ 環境への取り組みを実行に移そう!』国内、海外(各現地語、一部拠点ではデジタルサイネージ)でポスターを作成・掲示。『チャレンジ!ゼロCO2』の胸章を作業所で着用
「環境・社会貢献賞」表彰	グループ従業員を対象とし、業務や個人の活動による環境・社会への貢献実績を竹中工務店社長名で表彰
環境講演会	「脱炭素社会実現に向けた課題と展望、気候変動対策の最新動向」をテーマとした有識者による講演会開催(東京+オンライン配信)
生物多様性シンポジウム	「基調講演」、「生物多様性プロジェクトの取り組み・討議」などシンポジウム開催(大阪 清和台研修所 匠+オンライン配信)
新技術活用プロモーション展2023	「カーボンニュートラル」に対する取り組みの全体像を理解し、現状の取り組みと今後の課題について、オンラインパネルディスカッションを実施
グループ各社・各拠点の独自活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>江東区環境フェアへの「木と親しむ組子細工ワークショップ」出展(東京)</li> <li>東京本店でゴミ分別状況の実際を確認し、正しい分別方法(2022年4月施行の『プラ新法』)を理解する</li> <li>作業所(建設現場)で産廃分別教育の実施</li> <li>脱炭素カレッジで気候危機、脱炭素について考える機会を創出(東京本店)</li> </ul>
社内情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>社内報への環境特集記事掲載</li> <li>その他イントラネットによる各種情報発信</li> </ul>

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	
CASBEE S・Aランクプロジェクト件数 (件)	54	66	44	60	65	40	自主評価による。対象は当社設計プロジェクト *CASBEE: 建築環境総合性能評価システム。S、A、B+、B-、Cの5段階で評価。
CASBEE S・Aランクプロジェクト比率 (%)	85.7	89.2	91.7	93.8	98.5	95.2	
ZEBプロジェクト数 (件)	6	8	13	15	23	28	ZEB Oriented、ZEB Ready、Nearly ZEB、Net ZEB (計画値)
環境認証取得プロジェクト数 (件)	8	9	20	36	28	51	LEED、CASBEE、BELS、WELL、DBJ Green Building
生物多様性向上プロジェクト数 (件)	-	-	10	12	14	12	2020年から指標設定

●マテリアルフロー(竹中工務店)

		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	
建設活動量	延べ床面積 (千m <sup>2</sup> )	2,973	2,832	2,011	2,366	2,783	2528	
投入量	建設活動							
	生コンクリート投入量 (千m <sup>3</sup> )	1,423	1,206	1,328	1,507	1,282	1,083	
	鉄骨・鉄筋 (千t)	358	427	433	447	363	428	
	電力 (GWh)	39	44	47	39	26	35	
	軽油 (千m <sup>3</sup> )	32	26	27	24	30	43	
	給水 (千m <sup>3</sup> )	758	768	687	714	519	1,071	
	オフィス活動							
	コピー用紙 (百万枚)	57	54	44	43	37	31	
	給水 (千m <sup>3</sup> )	93	96	97	92	69	69	
	電力 (GWh)	17	17	17	17	17	17	
ガス (千m <sup>3</sup> )	142	171	200	174	197	207		
排出量	建設活動							
	建設副産物発生総量(リサイクル対象外を除く) (千t)	929	865	1,150	1,622	1,182	797	
	建設汚泥 (千t)	356	319	287	404	237	384	
	排水量 (千m <sup>3</sup> )	891	903	990	631	420	984	
	CO <sub>2</sub> (千t)	104	88	92	79	90	124	
	オフィス活動							
	紙くず (t)	535	457	409	418	409	365	
	排水 (千m <sup>3</sup> )	93	96	97	92	69	69	
	CO <sub>2</sub> (千t)	9	8	8	8	8	8	
	再生量	建設活動						
コンクリート再生量 (千t) (リサイクル率)		578	623	807	1,328	903	525 (100%)	
アスファルト・コンクリート (千t) (リサイクル率)		61	47	56	45	50	36 (100%)	
木くず (千t) (リサイクル率)		32	31	32	30	31	30 (100%)	
建設汚泥(残土を除く) (千t)		302	271	223	403	236	384	
オフィス活動								
古紙 (t) (リサイクル率)		477	431	387	393	391	341	
エネルギー総使用量		建設活動・オフィス活動合計 (千GJ)	1,456	1,225	1,277	1,114	1,319	1,852
CO <sub>2</sub> 排出量		建設活動・オフィス活動合計 (千t)	113	97	100	87	98	137
廃棄物リサイクル率		建設廃棄物リサイクル率(容積比) (%)	91.6	92.0	93.5	94.5	94.3	95.4

※ 一部のデータを遡って修正しました。

※ オフィスのエネルギー・給排水の集計範囲を拡大し、2019年まで遡って再集計しました。

●グリーン調達

竹中グループではグリーン調達の考え方を共有し、環境負荷の少ない物品やサービスの調達に努めています。

竹中グループのグリーン調達の考え方

竹中グループでは、グリーン購入法に基づいて環境負荷の小さい物品やサービスの調達に努めます。建設活動やオフィス活動における各種調達にあたっては下記の項目を考慮して、環境負荷低減に努めましょう。

1. 温室効果ガス(CO<sub>2</sub>等)排出、エネルギー消費が少ない
2. 枯渇性資源の代替または未利用天然資源を活用した資材である
3. 地球環境に対して有害な物質の含有・排出が少ない
4. 人の健康に対して有害な物質の含有・排出が少ない
5. 廃棄物の削減が図れる
6. リデュース、リユース、リサイクル品であるか、今後可能な資材である
7. 周辺環境に対して騒音・振動、塵埃等の発生が少ない
8. 生物多様性保全に配慮している

竹中工務店では、グリーン購入法を参考に独自の建設資材のグリーン購入品目を設定しています。とくに環境保全効果と汎用性の高い品目等を「重点グリーン項目」と定め、年間目標を設定して採用に努めています。

CO2削減長期目標と達成に向けた進捗

竹中グループは、2050年カーボンニュートラルに向けたグループ全体（連結）を対象としたCO2削減目標を設定しました。2030年の中間目標についてSBT認定取得にコミット済みで、2024年3月の認定を取得しました。

竹中グループCO2削減長期目標(2022年12月設定)  
 スコープ1+2 2030年までに46.2%削減、2050年までに100%削減  
 スコープ3 2030年までに27.5%削減、2050年までに100%削減  
 (基準年:2019年)

竹中グループCO2排出量(連結) (単位:t-CO2)

	2019年 (基準年)	2020年	2021年	2022年	2023年	2030年 目標	2050年 目標
Scope1	100,990	105,676	96,990	107,595	165,791		
Scope2	48,471	47,421	42,954	36,612	46,951		
Scope1+2合計 (基準年比増減率)	149,460	153,097 +2.4%	139,944 -6.4%	144,207 -3.5%	212,742 +42.3%	80,410 -46.2%	0 (-100%)
Scope3 「-」:該当なし	Category1	1,667,002	1,790,000	1,992,981	1,650,000	1,427,109	
	Category2	182,496	55,713	57,097	130,453	87,613	
	Category3	19,954	16,157	18,783	18,535	25,622	
	Category4	13,470	13,398	16,939	15,140	12,056	
	Category5	63,276	54,195	22,867	16,846	7,546	
	Category6	12,429	3,718	2,119	4,288	9,485	
	Category7	5,005	5,262	5,132	5,166	5,380	
	Category8	-	-	-	-	-	
	Category9	-	-	-	-	-	
	Category10	-	-	-	-	-	
	Category11	5,429,158	4,140,835	2,145,366	3,611,894	3,158,281	
	Category12	73,260	66,363	78,068	72,851	53,718	
	Category13	16,855	15,660	14,004	13,421	12,866	
	Category14	-	-	-	-	-	
	Category15	6,699	6,838	5,955	6,173	13,190	
Scope3合計 (基準年比増減率)	7,489,605	6,168,139 -17.6%	4,359,310 -41.8%	5,544,767 -26.0%	4,812,865 -35.7%	5,429,964 -27.5%	0 (-100%)

2023年度のCO2排出量は、第三者により検証された数値です。 [PDF](#)

CO2削減活動実績(竹中工務店)

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2030年目標	注記
作業所でのグリーン電力採用 使用量(kWh)	0	433,721	1,425,479	7,530,072	14,578,972		
低炭素型コンクリート「ECMコンクリート」の適用 適用量(m3)	19,477	21,244	49,021	87,375	59,062	120,000	同量の普通ポルトランドセメントを配合したコンクリートとの材料由来CO2排出量の差を削減貢献量とした。
CO2削減貢献量(t)	3,506	3,824	8,824	15,728		21,600	
低炭素型セメント「ECMセメント」の適用(土壌改良用) 適用量(t)	9,800	4,226	7,291	8,618	298	21,600	同量の普通ポルトランドセメントとの材用由来CO2排出量の差を削減貢献量とした。
CO2削減貢献量(t)	1,862	803	1,385	1,637		2,660	
軽量ダクト「エボルダン」の適用 適用量(m2)	17,734	9,868	16,675	7,775	3,782	-	主要構成材料の製造段階CO2排出量の従来品との差を削減貢献量とした。
CO2削減貢献量(t)	94	52	88	41			
環境配慮建築によるお客様のCO2削減への貢献 CASBEE Sランク プロジェクト件数(件)	11	8	12	21	10	13	・当該年に設計した当社設計・施工建物が対象 ・基準エネルギーからの削減量により計算 ・削減貢献量は耐用年数の全期間分
件数高比率	14.9%	16.7%	18.8%	31.8%	23.8%	20%以上	
CASBEE Sランク+Aランク プロジェクト件数(件)	66	44	60	65	40	60	
件数高比率	89.2%	91.7%	93.8%	98.5%	95.2%	90%以上	
削減貢献量(t-CO2)	1,659,299	1,317,292	587,656	1,379,316	1,049,182	-	

提供した建物のLCCO2(カーボンフットプリント)

当社では、設計した全ての建物について、CASBEE(建築環境総合性能評価システム)によるLCCO2算出を実施しています。

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2030年目標	注記
お客様に提供した建物のLCCO2 運用時CO2の合計(t-CO2)	5,181,000	3,927,000	1,885,000	4,289,464	2,842,266	3,108,770	対象は当該年に竣工した建物 比率は売上高ベース LCCO2を算定した建物は当社設計の建物
運用時CO2を算定した建物の割合(%)	68%	58.5%	65.1%	68.3%	69.6%		

## 環境負荷低減のための取組み状況

### ●脱炭素社会に向けた取組み

2050年カーボンニュートラルに向けた竹中グループ全体のCO2削減目標を設定し、削減に取り組んでいます。

- 建設工事における重機や車両の省燃費運転講習をおこない、協力会社とともに軽油使用量削減に努めています。
- 2023年2月1日から、作業所の「CO2排出量モニタリングシステム」を導入し、工事によるCO2排出量削減の目標管理に活用しています。
- 資材搬入等の工事車両の待機ヤード「TAK-station」の運用により、路上駐車回避だけでなくアイドリングストップによるCO2削減にも努めています。
- 廃棄物排出量の削減や収集運搬ルートの改善による輸送のCO2削減に取り組んでいます。
- 当社が協力して開発した工事現場事務所の省エネルギー仮設ハウス「エコフィス」をさらに改良し、従来品比2割の省エネルギー性能で、さらに火災にも強い仕様としました。
- 2023年2月1日以降に着工する工事において使用する電力は原則として再生可能エネルギー由来のグリーン電力とすることとし、導入を拡大しています。
- 主要なオフィスで太陽光発電を導入しています。
- 2016年にZEB化改修した東関東支店オフィスでは、地中熱・太陽熱の直接利用による放射冷暖房、超コンパクト型デシカント空調機など、自社開発技術を含めた設備や外装の更新による性能改善を実施し、エネルギー消費量を削減、ネット・ゼロエネルギーを達成しています。

### ●資源循環社会に向けた取組み

- 建設副産物の処理・発生抑制・リサイクル等について、詳細を記した「建設副産物管理業務マニュアル」を整備し、作業所ごとに作成する「総合施工計画書」に計画を盛り込んで管理しています。
- 建設廃棄物の適正処理や、発生抑制のための分別徹底等について、作業所での説明会等、様々な方法で社員・協力会社作業員の教育を徹底しています。
- 建設副産物のリサイクル率向上のため、作業所での分別を徹底しています。とくに廃プラスチック類については、種類ごとの分別細分化等によるマテリアルリサイクルの推進を図っています。
- BIM(Building Information Modeling)を活用して配管などを工場でプレカットすることで、工事現場での端材発生をなくし廃棄物を削減しています。
- 外壁などのタイルを剥がしとして再生し再利用可能とする技術「モルトール」を開発し、歴史的建造物の保存再生などに活用しており、資源の有効活用と廃棄物削減に貢献しています。
- 2022年5月に㈱大協建設と共同で㈱DTプレコンを設立し、コンクリート部材のプレキャスト化を推進しています。工期短縮や工事現場での省力化とともに、合板型枠使用量の大幅削減にもつながります。

### ●水資源への配慮

- 作業所で雨水タンクを設置して粉塵を防止するための散水や洗浄用途で使用し、上水使用量の削減を図っています。
- 大規模地下工事にあたり地下水位を下げるために大量に汲み上げた水を、下水道放流しないで地下水層に戻すリチャージ工法の高度化技術を保有しており、地下水保全を図っています。
- 水質浄化・水利用関連の様々な技術を保有しており、お客様・自社の水使用量の削減に貢献しています。
- 豪雨時の下水道への雨水流出を制御し地下浸透を図る「レインスケーブ」を開発、自社敷地や設計プロジェクトに適用しています。

### ●生物多様性保全の取組み

- 自然の豊かな場所での建築計画において、事前に周辺の植生や生態系を十分に調査し、地域の植生に合わせた植栽や、小動物の通り道確保など希少生物の保護・生物多様性への配慮に努めています。
- 建設地で絶滅危惧種等の希少動植物が確認された場合には、工事期間中は移植して保護する等、工事期間中の生態系保護に努めています。
- 企業の土地利用を生物多様性の観点から評価する「土地利用通信簿」などのツールを用いて影響の評価をおこなっています。
- 兵庫県川西市の当社研修施設を活用した「清和台の森づくり」では、里山の生態系保全活動をおとして社員の生物多様性に関する意識を高める体験型研修をおこなっています。
- 千葉県印西市の当社技術研究所敷地に整備した生物多様性技術実証フィールド「調の森SHI-RA-BE」で、地域とのコミュニケーションを含め様々な活動をおこなっています。「調の森 SHI-RA-BE」は、2021年に屋外環境の認証制度SITES(The Sustainable SITES Initiative)でゴールド認証を取得しています。

### ●汚染(地域公害、有害化学物質など)への対応

- 社内の業務マニュアルで地域公害への対応について定めており、「環境保全点検表」等に基づき、防止策の実施状況を定期的に点検し、騒音値の測定等もおこなっています。
- 水質汚染事故等、起こりうる緊急事態への対応を作業所ごとに作成する「総合施工計画書」に盛り込んでいます。
- 高層ビルの解体において、建物上部を覆う「移動式解体工場」(ハット)内部で解体しながら順次地上まで降りてくる「竹中ハットダウン工法」を開発し、適用しています。工期の短縮と低騒音・低粉塵を同時に実現する工法です。
- 作業所の照明のLED化や自動消灯をおこない、CO2削減や周辺地域への光害軽減につながっています。
- 作業所で保管する石油類や有機溶剤等の取扱い、アスベスト除去工事等における対応について規定し、作業所ごとに作成する「総合施工計画書」に盛り込んでいます。とくに解体工事におけるアスベストの取扱いについては従業員教育を徹底し、アスベストを含む廃棄物は特別管理産業廃棄物として処分を委託しマニフェストによって確実な処分を確認しています。
- ダイオキシン類の除去を伴う焼却施設の解体を安全におこなう「トランシッド・システム」を開発し、一般財団法人日本建築センターの技術認定を取得しています。

### ●プロダクトガバナンスとライフサイクル・アセスメント(お客様に提供した建物の使用・解体による環境負荷、解体後の材料リサイクル等)の推進

- 建物外皮の断熱性能向上や日射遮光による冷房負荷の軽減、自然光・自然通風の利用など環境配慮設計による省エネルギーと、太陽光発電等の再生可能エネルギー利用により、ZEB(ゼロエネルギービル)など正味エネルギー消費量の少ない建物を創出しています。
- 建物の省エネルギー、再生エネルギー活用、そのためのエネルギーマネジメント等の技術開発をおこない、活用しています。
- 耐火集成木材「燃エンウッド」や木質材料による耐震補強「T-FoRest series」などの独自技術を開発し、中高層の木造・木質建築の拡大・国産木材の活用を進めています。

環境関連の主要な社外賞受賞実績(2023年)

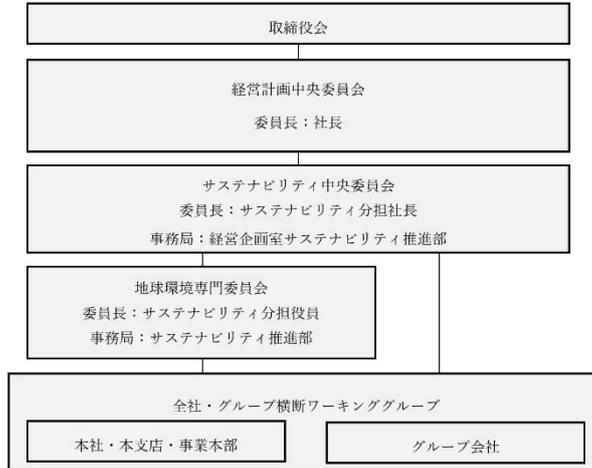
賞名	受賞作品・技術	主催者
ウッドデザイン賞2023 最優秀賞 (国土交通大臣賞)	北海道地区FMセンター	一般社団法人 日本ウッドデザイン協会
ウッドデザイン賞2022 奨励賞 (審査委員長賞)	内子龍王バイオマス発電所	一般社団法人 日本ウッドデザイン協会
令和5年度 木材利用優良施設等コンクール林野庁長官賞	立命館アジア太平洋大学 Green Commons (大分県別府市)	木材利用推進中央協議会
第25回国土技術開発賞 最優秀賞	汚染地盤の加温式原位置高速バイオ浄化技術」	一般財団法人国土技術研究センター 一般財団法人沿岸技術センター
第43回エンジニアリング功労者賞	KIPLUS®	日本エンジニアリング協会
第61回空気調和・衛生工学会賞 技術賞 建築設備部門	高砂熱学イノベーションセンターにおける環境・設備計画と実施	公益社団法人 空気調和・衛生工学会
第37回空気調和・衛生工学会振興賞 技術振興賞	サンエー浦添西海岸 PARCO CITY	公益社団法人 空気調和・衛生工学会
第37回空気調和・衛生工学会振興賞 技術振興賞	深江竹友寮の環境・設備計画	公益社団法人 空気調和・衛生工学会
第37回空気調和・衛生工学会振興賞 技術振興賞	武庫川女子大学 公江記念館の設備計画	公益社団法人 空気調和・衛生工学会
令和5年度資源循環技術・システム表彰(第49回) 経済産業省産業技術環境局長賞	建設汚泥の少ないソイルセメント壁工法の開発と展開	一般社団法人 資源・リサイクル促進センター
第22回屋上・壁面緑化技術コンクール 国土交通大臣賞 壁面・特殊緑化部門	大阪梅田ツインタワーズ・サウス	公益社団法人 空気調和・衛生工学会
令和5年度 気候変動アクション環境大臣表彰 開発・製品化部門	「COOL分電盤」の開発	環境省
令和5年度 気候変動アクション大賞 先進導入・積極実践部門	沖縄における大型商業施設の省エネルギー・省CO2への先導的取り組み	環境省
令和5年度 気候変動アクション環境大臣表彰 先進導入・積極実践部門	セブンパーク天美 環境配慮型SC(地域環境に与える影響のミニマム化)	環境省
令和5年度 デマンドサイドマネジメント表彰(令和5年度) 一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センター理事長賞	沖縄における大型商業施設の省エネルギー・省CO2への先導的取組み	一般財団法人 ヒートポンプ・蓄熱センター

## ◆気候変動に関連する当事業への影響(TCFD提言に沿った情報開示)

竹中工務店は、2020年に気候変動による事業影響(リスク・機会の分析・戦略への反映)の検討を開始しました。2021年1月にはTCFDの提言に賛同し、関連情報開示を進めています。

### ●ガバナンス

024年以降、「CSR推進中央委員会」を「サステナビリティ中央委員会」に改称し、社会的要請を受ける課題を特定するとともに、その対応方針及び計画を全社横断的に審議・立案を行い、社会課題の解決と企業価値の向上に向け、活動を開始しています。  
また、主管部門として「CSR推進部」を「サステナビリティ推進部」に改組し、E(環境)S(社会)G(ガバナンス)の領域にわたり、各部門と連携・協働し、サステナビリティ活動とその情報開示を推進しています。  
サステナビリティに関する事項は、各業務委員会で討議を行い、重要事項については、サステナビリティ中央委員会及び取締役会で審議し、決議事項は所定の手続きを経て執行されています。



### ●戦略

サステナブル社会の実現には、今後、脱炭素、資源循環、自然共生の3分野を統合的に推進することが重要であるという認識から、グループをあげてこれらの取り組みを加速させるために「竹中グループ環境戦略2050」を2050年のゴールとして制定しました

気候変動に関連する事業への影響(竹中工務店)

	特定した主要なリスク・機会	影響レベル	リスク・機会への対応
リスク	建築物省エネルギー法の規制強化に伴うコスト増大リスク(規制リスク)	高	・コスト増を抑えた省エネ技術の開発と環境品目の調達 ・建築主のESG投資獲得のためのファイナンススキームの構築 ・BIMを活用したシミュレーション技術により、建築主の適正なコスト負担への合意形成
	工事中の異常気象災害に伴う補償工事費増加リスク(急性物理リスク)	低	・工事現場の強靱化と、建築主への丁寧な説明による適正なコスト負担への合意形成
	現場作業員の熱中症発生に伴う生産性低下リスク(慢性物理リスク)	中	・熱中症対策の事前予測及び防止デバイス開発による熱中症発生抑制
	施工時脱炭素ニーズ増加による競争力低下リスク(市場リスク)	やや高	・施工時のCO2削減メニュー策定 ・CO2排出量測定・集計システムの開発
機会	ZEB、エネルギー管理システムの受注機会拡大	高	・ZEB設計ツール、エネルギー管理システムの高度化に必要な技術開発
	中高層木造・木質建築の展開による受注機会創出	高	・中高層木造・木質建築の普及拡大に必要な技術開発投資
	建物の環境性能ニーズを先取りした技術開発による受注機会拡大	中	・ECMコンクリート(低炭素型コンクリート)やCO2吸収コンクリート関連技術等の開発

リスク・機会への対応として、技術開発の中でCO2削減など気候変動対応に特化した予算を設定しています。

### ●リスク管理

竹中グループCSRビジョンに基づいて企業活動を実行し、当社グループのサステナビリティの実現への取り組みを推進するため、取締役会の諮問機関として、2024年度よりサステナビリティ中央委員会を設置し、サステナビリティに関わるリスクと機会を抽出・評価し、当社グループのサステナビリティに関わる課題の特定と具体的施策の検討を行うとともに、執行部門における実施状況の評価を行い、取締役会に報告を行っています。  
「3事業等のリスク」に記載のとおり、気候変動リスクをはじめとする当社グループの事業におけるサステナビリティ関連リスクを投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性があるリスクと認識し、発生の回避及び発生時の迅速かつ適切な対応を行い、その状況について定期的に取締役会に報告を行っています。

### ●指標と目標

3か年の事業計画・目標設定の枠組みから、2023年に社会・環境課題を短期・中期・長期の視点で捉え直し、当社の取り組むべき活動を重点的に掲げるかたちとし、企業環境の変化やサステナビリティに関わる社会動向を幅広く確実に認識することを目指し、重要課題として特定しました。  
この重要課題解決の取り組みを通じて、社会課題の解決による持続可能な社会と当社グループの目指す姿を実現し、企業価値の創造に努めています。

竹中グループCO2削減長期目標(2022年12月設定)		
スコープ1+2	2030年までに	46.2%削減、2050年までに100%削減
スコープ3	2030年までに	27.5%削減、2050年までに100%削減
(基準年: 2019年)		